

# 現行まちづくり基本方針の評価（市町アンケートによる評価） **安全安心**

めざすべき将来像の進捗度合

めざすべき将来像			進捗度合					
			1	2	3	4	5	
安全・安心	多自然地域の集落群	地域の防災減災対策が向上している	津波等、災害時の被害想定が地域で共有され、方が一の場合の移転先等、事前復興まちづくり計画が策定されている	0%	58%	33%	8%	0%
			一部危険な地域では建築が制限されている他、災害時の避難路や避難方法、要援護者への支援体制が確立している	0%	21%	50%	25%	4%
			災害時のアクセスルートの多重化と孤立した場合の連絡手段や物資支援方法も確立され、誰もが理解している	0%	46%	46%	8%	0%
		誰もが安心して暮らしている	定期的な日用品移動販売も行われ、都市からの移住者が運営する自主運行バスにより、設備の整った医療や介護施設が立地する地方都市へのアクセスが容易になっている	0%	46%	38%	17%	0%
			顔なじみによる見守りや介護の仕組みによって、高齢者や子供等が安心して暮らしている	0%	42%	42%	17%	0%
			事前復興まちづくり計画が策定され、大規模災害による都市機能喪失時に、仮設住宅の建設やガレキの処理、復興まちづくりを迅速に行える体制が整っている	0%	73%	17%	10%	0%
	地方都市	周辺地域の災害対策拠点となっている	建築物の耐震化や建替えが完了し、宅地の耐震化も確保されている	0%	40%	50%	10%	0%
			災害時の避難や要援護者への支援体制が確立している	0%	13%	63%	23%	0%
			医療施設や介護施設が充実し、周辺の集落の住民の安心拠点となっている	0%	50%	33%	17%	0%
		地域生活の安心のコアとなっている	ユニバーサルデザイン化や移動手段の確保により、高齢者や子育て世帯、外国人等、誰もが安心して暮らしている	3%	53%	33%	10%	0%
			地域ぐるみの防犯や交通安全活動により、犯罪や交通からの安全が確保されている	0%	27%	57%	13%	3%
			建築物や宅地の耐震性が確保されている	0%	33%	60%	7%	0%
	郊外住宅地	地域の防災・減災対策が向上している	一部危険な宅地では建築が制限されている	0%	80%	13%	7%	0%
			自主防災組織や防犯組織が活発に活動し、地域の防災や防犯体制、要援護者の支援体制が確立している	0%	27%	33%	33%	7%
			センター地区の商業施設や公共施設の改修が進み、誰もが生きがいを持ち安心して暮らしている	0%	73%	27%	0%	0%
		高齢者等が安心して暮らせる環境になっている	医療福祉サービスが充実している	7%	47%	40%	7%	0%
			生活利便サービスが充実し快適に暮らしている	0%	73%	27%	0%	0%
			団地内には高齢者等の移動も容易な公共交通が整備されている	0%	53%	27%	20%	0%
都市中心部	災害に強い都市構造となっている	事前復興まちづくり計画が策定され、大規模災害による都市機能喪失時に、仮設住宅の建設やガレキの処理、復興まちづくりを迅速に行える体制が整っている	0%	73%	9%	18%	0%	
		建築物は免震制震構造により安全が確保され、また雨水は貯留システムにより非常時や灌水に活用されている	0%	64%	36%	0%	0%	
		緊急輸送路や避難路、避難所となる公共施設、津波避難ビルなどが安全に整備され、分散型のエネルギーネットワークと相まって災害時も十分な機能を発揮している	0%	55%	18%	18%	9%	
		防災に関する最先端の知見や震災の教訓が整理され、伝承されている	0%	27%	27%	36%	9%	
	都市全体が安心の拠点となっている	誰もが安心して生活し活動でき、いつでも必要なモノを入手し、必要な情報へアクセスすることが可能になっている	0%	73%	18%	0%	9%	
		まちの防犯交通システムが整備され、安全に暮らしている	0%	27%	9%	64%	0%	

## アンケート結果の主な傾向

【進んだ】 「建築物の耐震性の確保」、「災害時の避難路・支援体制」  
「まちの防犯交通システムの整備」

【進んでいない】 「復興まちづくりを迅速に行える体制」  
「生活利便サービスの充実」、「必要な情報へのアクセス」

めざすべき将来像の進捗度合(市町アンケート)

めざすべき将来像		進捗度合						
		1	2	3	4	5		
環境共生	多自然地域の集落群	都市へのエネルギーの供給源となっている	・ 地域内での食料やエネルギーの自給自足が行われている	0%	58%	33%	8%	0%
			・ 水力発電やバイオマス、メガソーラー等により再生可能エネルギーが創出され、周辺地域や大都市にも供給されている	0%	46%	38%	17%	0%
		自然環境や農地が次世代へ継承されている	・ 都市住民のボランティア活動によって、森林や里山、農地が適正に管理されている	4%	75%	21%	0%	0%
			・ 貴重種が保護され、野生動物と共生した暮らしが実践されている	4%	75%	21%	0%	0%
			・ 自然体験や癒し健康を求めて都会から多くの家族連れが来訪している	0%	46%	42%	13%	0%
			・ 自給自足や自然環境と共生する暮らしが実践されている	0%	83%	17%	0%	0%
	地方都市	地域エネルギーが自立している	・ 創エネや蓄エネ、省エネの組み合わせにより、エネルギーの効率活用と地産地消が進んでいる	0%	67%	30%	3%	0%
			・ 住替えや集約化に伴う空き地が創エネ施設としても活用されている	0%	80%	20%	0%	0%
		地域の自然や気候を生かしたまちづくりが進んでいる	・ 歩いて暮らせるまちとなり、公共交通が活用されている	7%	40%	43%	10%	0%
			・ ゆとりある住宅の庭や道路公園の緑が周辺環境と調和し、地域の動植物と共生した緑豊かなまちが実現している	0%	70%	27%	3%	0%
			・ 住宅には地域の木材が活用され、高い断熱性能やパッシブソーラー、太陽光発電設備を備えた住宅が普及し、低炭素化が進んでいる	0%	50%	47%	3%	0%
			郊外住宅地	住宅・都市の低炭素化の先進地域になっている	・ 発電設備や省エネ設備によるゼロエネルギー型住宅地が開発されている	0%	80%	13%
・ 地域による太陽光発電設備の集団導入や団地内の空き地等への創エネ施設の立地が進み、スマートコミュニティによる効率的なエネルギー活用が実現している	0%	93%			7%	0%	0%	
・ 新規開発団地は創エネに配慮した空間構成となっている	0%	100%			0%	0%	0%	
・ カーシェアリングの他、電気バスや燃料電池バスが主要交通となっている	0%	100%			0%	0%	0%	
自然との共生の先進地域になっている	・ ブロック塀は生垣に代わり、まちなかに緑が溢れ、安らぎの空間が形成されている	0%		67%	27%	7%	0%	
	・ 地域内のピオトープには近郊から鳥や昆虫が訪れている	0%		93%	7%	0%	0%	
都市中心部	エネルギー源の多様化・分散化が進んでいる	・ 大規模な建築物や開発地には、自立したエネルギー源や蓄電設備、分散型のエネルギーネットワークが整備され、地域のエネルギー利用が最適化されている	0%	64%	27%	9%	0%	
		・ マンションやオフィスビルの省エネ化や創エネ化が進んでいる	0%	27%	45%	27%	0%	
	低炭素なまちづくりが進んでいる	・ まちなかでは、フリーパスを使った電気バスや超小型電気自動車等を活用した交通ネットワークが形成されている	0%	100%	0%	0%	0%	
		緑あふれる都市空間となっている	・ 道路や公園、河川、建築物の屋上等を活用した緑のネットワークが形成され、都市は様々な生物であふれている	0%	55%	27%	18%	0%
・ 風の道を考慮した計画により、施設の配置やデザインがコントロールされている	0%		91%	9%	0%	0%		

アンケート結果の主な傾向

【進んだ】 「創出された再生可能エネルギーの周辺地域への供給」  
「マンションやオフィスビルの省エネ・創エネ化」

【進んでいない】 「カーシェアリングや燃料電池バスの主要交通化」  
「まちなかにおける超小型電気自動車等による交通ネットワーク形成」

## 魅力活力

### めざすべき将来像の進捗度合

### めざすべき将来像

進捗度合				
5: かなり進んだ 4: 進んだ 3: 少し進んだ 2: かわらない 1: 後退した				
1	2	3	4	5
8%	63%	21%	4%	4%
4%	46%	50%	0%	0%
0%	58%	38%	4%	0%
0%	63%	25%	13%	0%
0%	50%	42%	8%	0%
0%	92%	8%	0%	0%
0%	67%	23%	7%	3%
0%	50%	40%	10%	0%
0%	47%	43%	7%	3%
3%	70%	27%	0%	0%
0%	90%	10%	0%	0%
0%	70%	27%	3%	0%
0%	73%	27%	0%	0%
0%	60%	27%	13%	0%
0%	87%	13%	0%	0%
0%	60%	27%	13%	0%
0%	53%	13%	33%	0%
0%	73%	20%	7%	0%
0%	73%	27%	0%	0%
0%	9%	73%	18%	0%
0%	45%	45%	9%	0%
0%	64%	18%	18%	0%
0%	55%	45%	0%	0%
0%	55%	45%	0%	0%

魅力活力	多自然地域の集落群	地域の個性と豊かな住環境が大切にされている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域ごとの個性ある景観が保全されている</li> <li>・ 地域ルールにより、空き家が適正に管理され、活用できないものは解体されている</li> </ul>
		地方都市	地域資源が新たな地域の魅力やしごとを生んでいる
魅力活力	郊外住宅地	地域の個性が発見・発信され、新たなしごとを生んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 広域景観ルールにより地方独特の景観が保全され、歴史や物語と複合して、広域的な観光ルートが整備されている</li> <li>・ 地域に根ざした事業者が地域の雇用を生み出している</li> <li>・ 個性ある歴史文化やまちなみ、建築物、地域固有の農産物料理、工芸品などの資源が保存継承され、新たなビジネスや人を誘引する魅力となっている</li> </ul>
		まちなかの利便性が向上し、賑わいが生まれている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 周辺集落からの通勤や通学、医療福祉、購買等の中心地となっている</li> <li>・ 都市機能の集約により、中心市街地の利便性が高まり、周辺地域の文化的な暮らしを支えている</li> <li>・ 多様な働き方による多様なライフスタイルが実現している</li> </ul>
		地域内に新たなサービスや「しごと」が生まれている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療や介護、購買施設等が徒歩圏内に立地している</li> <li>・ 住民の工夫により、地域資産を活用した新しいサービスが生まれている</li> </ul>
魅力活力	都市中心部	まちの景観や空き空間は地域により管理活用されている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 団地の文化や景観が地域の新たな資産になっている</li> <li>・ 景観ルールにより、ゆとりある美しいまちなみが保全され、沿道の景観や土地利用もコントロールされている</li> <li>・ 住宅の管理や維持保全への意識が高まり、適切な維持管理や更新と、中古住宅流通が進んでいる</li> <li>・ 地域主体の空き地空き家の取得活用が進んでいる</li> <li>・ 住宅地は宅地の細分化防止やゆとりの確保に重点を置いた計画がなされている</li> </ul>
		歴史や生活文化が都市の魅力を高めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の歴史文化を背景としたまちなみや建築物が保存継承され、地域の愛着が育成されている</li> <li>・ 地域資源やそれを活かしたサービスの集積が新たな産業や人々を誘引している</li> </ul>
		多様な都市機能の集積再編が新たな活力を生み出している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域のマネジメントにより、使われなくなった地域資産は新たな事業や活動のために投資され、イノベーションの原動力となっている</li> <li>・ 県内外から創造的な人材が集い、あらゆるモノやサービス、情報を必要とときに入手し活用でき、常に多くの人で賑わっている</li> <li>・ 基幹産業からコミュニティビジネスまで、様々なレベルで誰もが働ける環境が整っている</li> </ul>

#### アンケート結果の主な傾向

【進んだ】 「歴史文化・まちなみ等の保存継承・人々の誘引」  
「地域資源を活かした新たなビジネス」

【進んでいない】 「創エネの新たな地域産業化」  
「都市機能の集約による中心市街地の利便性向上」

めざすべき将来像の進捗度合

めざすべき将来像			進捗度合					
			5: かなり進んだ 4: 進んだ 3: 少し進んだ 2: かわらない 1: 後退した					
			1	2	3	4	5	
自立連携	多自然地域の集落群	地域への愛着が次世代へのつながりと新たな担い手を育てている	・ 祭りや伝統が大切にされ、親から子へ継承されている	0%	79%	17%	4%	0%
		村移りなどにより集落の暮らしが維持されている	・ 専門家のアドバイスのもと、住民によって、集落の未来を描いた村ビジョンが策定され、地域を出た村民にも共有されている ・ 農や自然に興味を持つ都市住民が集落を訪れ、地域住民と活発に交流することが多くなり、また彼らの新たな取組は地域で歓迎されている ・ 近隣集落等への村移りにより、集落の適正な機能が維持されている	0%	50%	50%	0%	0%
	地方都市	内外の多様な人々による交流が進んでいる	・ 田舎暮らし愛好者や地域文化研究者等、地域固有の歴史や文化、環境に惹かれた人々が居住交流し地域の活動交流拠点となっている	0%	73%	20%	7%	0%
		広域交通と地域交通の結節点となっている	・ 地域間の基幹交通網の整備により、他の都市へ短時間の移動が可能になるとともに、周辺の集落からのバス、コミュニティ交通などのターミナルとなっている	3%	43%	40%	10%	3%
		広域的なまちづくりが進んでいる	・ 地域間の広域連携により、機能や人材が補完されている ・ 周辺の集落の居住者も頻繁にまちを訪れ、まちなかは人口以上の賑わいを見せている ・ 広域的な祭りやイベントが行われ、地域のアイデンティティを形成している	0%	63%	33%	3%	0%
	郊外住宅地	多世代による多様なコミュニティが実現している	・ 都市へのアクセスの良さや地域内のゆとりある空間などにより、様々なライフスタイルが可能となっている	0%	67%	13%	20%	0%
			・ シェアハウスやグループホーム、地域内の住替えなどにより、多世代がバランスよく居住している	7%	67%	20%	7%	0%
		高齢者が活躍し、地域をマネジメントしている	・ 都市中心部に勤務する若年世帯がゆとりある住環境を持つ郊外住宅地で子育て時期を過ごすことが多くなっている	0%	80%	20%	0%	0%
	都市中心部	多様な住まい方・空間による多様な交流が実現している	・ 空き店舗等を活用した趣味活動やコミュニティビジネスなど、多様な人材が自由時間を活かし、交流している	0%	87%	7%	7%	0%
			・ 経験豊かな住民が地域のリーダーとなり、住民主体の地域マネジメントが進んでいる	0%	67%	33%	0%	0%
		地域間の交流と連携が進んでいる	・ コレクティブハウジングやシェアハウス、ルームシェアなど、様々な住宅が整備され、個人の希望により多様な住まい方が選択できるようになっている	0%	73%	18%	9%	0%
		広域的なまちづくりが進んでいる	・ 共同住宅には交流空間が整備され、住民の趣味活動も活発で、都市内の多様な交流施設での出会いが新たなネットワークを生み出している	0%	82%	9%	9%	0%
		・ 都市と農村のパートナーシップ等により、様々な地域間交流が進んでいる	0%	64%	36%	0%	0%	
		・ 高速道路や空港、港湾などの利便性が一層高まることで、各都市が必要な機能を分担し、先進医療施設や国際研究機関の集積が進み、全国や全世界から人が集まっている	0%	45%	55%	0%	0%	

アンケート結果の主な傾向

【進んだ】 「交通利便性の向上による各都市の機能分担と、先進医療機関等の集積」

【進んでいない】 「近隣集落等への村移り」、「定住者・来訪者の増加」  
「郊外住宅地に居住する若年・子育て世帯の増加」